

## 東日本大災害と「心の健康」を考える講演会

3月11日に起こった東日本大震災、津波、福島第一原子力発電所の事故は、私たちの生活を直撃しました。映像とは言え、繰り返し見た悲惨な光景は日本中の人々の心に影響を与えました。また、被災した方々だけでなく、ボランティアとして活動した人々の中にも、瓦礫や遺体の夢を見るようになるなど、多くの人々の心の中で、災害はまだ続いています。

アメリカには、戦争やハリケーンでの体験で「心の健康」を失った人々のための精神保健サービスがあります。その臨床と研究に関わっているチームは、すでに災害直後の東日本を訪れ、支援を開催しました。

2名の最前線で活動する専門家が、今回が2回目となる訪問の機会に、早稲田大学の学生や、地域で保健福祉に携わる方々のために、「心の健康」を支える効果的な方法について提案します。

日時 2011年10月1日(土) 午後3時から5時まで  
場所 早稲田大学 染谷国際会館 会議室 (費用無料)

開会挨拶 早稲田大学教授・人間総合研究センター所長 森本 豊富

講演 「科学的根拠に基づく心的外傷(PTSD)の治療と

遠隔医療技術の活用」(通訳付)

“Evidence based treatment for PTSD and the use of tele-health technology”

講師

Dr. Peter Tuerk 南サウス・カロライナ医科大学 準教授

(インターンシップ研究訓練プログラム所長)



Dr. Sheila Rauch ミシガン大学 準教授

(アナーバー・ヘルスシステム OEF/OIF

メンタルヘルス・プログラム所長)

主催 早稲田大学人間科学総合研究センター

後援 高齢者を支える学術的チームアプローチ推進ネットワーク (ミシガンネット)

連絡先 04-2947-7123 (TEL/FAX)